

たね通信



小さなたねの物語が描かれたスタンドグラス (ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈)

一 決して争ってはいけない。争いの中に弱いもの生きざる場はない
一 親個人がいかなる主義主張があつても重症児運動に参加する者は党派をこえぬこと

戦後70年を迎え、「安保法案」や「原発の再稼働」など、この国はとてつもない岐路に差し掛かっていると感じています。私たちが何を大切すべきなのか。それらを一人一人が、自分で考えなければならぬのだと思います。「平和」とは何か、「安全」とは何か、過去の出来事についてしっかりと向き合いつつ、現在何が行われようとしているのかを、知ることも必要です。これまで、「強者の論理」を振りかざし強行してしまう人たちに、全てを任せてしまっていたのでは、本来の「平和」とは真逆の方向に進んでいくってしまつのではないのでしょうか。

「重症心身障害児(者)を守る会」が掲げる三原則に、



雲一つない青空の下で……

「い」や「武力」を放棄した「平和」のあり方を求め続けてきたのではないのでしょうか。その道を重い障がいを持つ彼(女)たちと共に歩み続けたいと思います。守るべきものは、私たちだけの「生命」ではなく、全世界の共通の「いのち」なのですから。

平和に至る道

一 最も弱いものをひとりもれなく守るとあります。守る会結成より半世紀の時を重ねて、なお輝き続けている言葉だと思っています。

私たちの目の前には、「平和を実現している」重い障がいを持つ方たちがいます。争いの中では、彼(女)たちの生活は成り立ちません。私たちは、その暮らしを守り続けるために、「武力」でなく「労力」を、「戦争」でなく「対話」をしていく大切さを、重い障がいをもって生きる彼(女)たちから教えられる続けています。戦後この国は、まさに「争

お知らせ

来る9月27日(日)の増改築記念イベントでは、「うさぎプロジェクト」さんによる「サンデーマーケット」を共催させて頂くことになっていきます。
「永利牛乳」のプリンや、無農薬野菜、手作りジャム等、どれも安心しておいしく食べられる食材です。ぜひお越しくださいー！



PropStation

後記

私はスイカが大好き。晩ご飯がスイカでも大歓迎だ。ところが息子(中1、重心)は果物全般が苦手。小4の娘は「種が面倒」。「はあ!? それじゃアケビとかザクロは食べられんよ」「へ?」「ほとんど種で、周りの果肉を食べるとよ」「メンドクサ」「…。私は通学路を牛が歩くような田舎で育った。柿をちぎり、ユスラウメをざる一杯にとり、怪我を覚悟でクルミを金槌で割って食べた。環境がまるで違う。子どもの頃、母がくれた干柿を「苦手」と返した時の、母の寂しげな表情を思い出した。(E)



医療法人にのさかクリニック
地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172 福岡市早良区梅林6-23-3
電話 092-874-3051 FAX 092-874-3052
E-mail: chisanatane@tune.ocn.ne.jp



所長 水野 英尚

小さなたね第二章

先日、長野県佐久市の「佐久医療センター」を会場にした「キッズケアサミット2015 in 軽井沢・佐久」に、シンポジストとして参加させて頂きました。

このサミットは、軽井沢で3週間にわたって開催された「軽井沢キッズケアラボ」という催しの中で、研修プログラムの一つとして実施されたものです。キッズケアラボとは、福井県福井市の在宅支援診療所「オレンジホームケアクリニック」（紅谷浩之代表）が、医療ニーズの高い子どもたちに「非日常」を体験してもらおうと企画したもので、ドクターやナース、介護スタッフが常駐して、昼夜、交流の場が持たれました（昼のタマリバと夜のトマリバ）。

シンポジウムには、全国で同じような取組みをしている事業所が集まり、代表の紅谷氏は、「人生において、癒し、憧れ、想い出、となるような非日常。そんな意味での『リゾート』をつくってほしい」と、また来年もやりたいと意気込みを語っておられました。

生活には「日常」と「非日常」というメリハリが大切ですが、当然日々の暮らしの「日常」が守られてこそ、「非

日常」を楽しむことができます。福井から発信された今回の取組みは、医療ニーズの高い子どもたちの日々の暮らしを、しっかりとサポートしてきたからこそ、「非日常」を思いっきり楽しむことができるのだと改めて感じました。小さなたねの増築工事も無事に終わり、新しい「ステージ」が誕生しました。ここが、「日常」の暮らしに「彩り」を加える場所であって欲しいと思います。

オープンカフェをイメージした空間には、毎週水・金曜日（祝日・第三水曜日はお休み）に、「スープカフェ」がオープンします。管理栄養士の小淵氏監修のもとに考案されたメニューを、にのさかクリニックのスタッフやボランティアさん・小さなたねの保護者の方を、まずは対象にして限定付きのスタートです。

何よりも、これがスープであるということが大切です。嚥下が困難で口から食べられない方でも食べやすく、胃ろうチューブからの注入も可能なスープ。つまり、小さなたねを利用している子どもたちの「食事」（栄養注入でなく）も想定しています。化学調味料などを使用せず、食材から出汁を取って素材の味を引き出すことにもこだわります。

また、「同じ釜の飯を食う仲間」という日本伝来の連帯性にも着目し、今まで一緒に食事をするという感覚の薄い

増改築記念イベント

この町で暮らしたい

～いのち育むコミュニティーを目指して～



2015年

9月27日（日）

10:30～15:00

▶ 午前の部

講 演 10:30～11:30
シンポジウム 11:30～12:15

▶ 午後の部

たねカフェ&うさぎサンデーマーケット
12:00～15:00

講師：和田 忠志 氏

内科医。千葉県松戸市に、小児科医の前田浩利氏他と共に「あおぞら診療所」を開設。在宅医療に従事しながら、高齢者虐待防止等に尽力。

うさぎプロジェクトさんより

私たちは、太宰府宝満山麓の北谷を拠点とする地域づくり活動のグループです。活動は、人が集まるコミュニティスペース（うさぎ庵）の運営や、障がい者や高齢者の社会参加、無農薬野菜の流通販売など多岐にわたっています。私たちの活動の目的は、誰もがその人らしく「いきいき」と暮らしていける「地域」を支える仕組みを創り守っていくことです。



＊カフェ店員、の
二ノ坂院長に会えるかも？

7月末にて、退職することとなりました。2年間という短い間でしたが、たくさんの利用者さんとご家族・スタッフに出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

11月より訪問看護ステーション `Ohana、(オハナ) を開設します。開設しようと思ったのも小さなたねに出会えたからです。これからまた皆さんとお会いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

そして、本当にありがとうございました。

看護師
羽太 舞子



私はこのたび、小さなたねを退職し、11月に開所する『訪問看護ステーション Ohana(オハナ)』で、訪問看護師として働くことになりました。以前より、訪問看護に携わりたいという思いがあり、小さなたねで多くの方たちと出会ったことが、今回の決心につながりました。

小さなたねでの仕事はとても充実し、そこに関わる人たちとの出会いや、小さなたねが担っている役割・存在に大きな意味を感じていましたので、正直さみしい気持ちです。でもこれからはその役割・存在・関わる人たちと、訪問看護師という立場から共に連携し、つながっていけたらと心から思っています。これは `つぶやき、でなく決意表明ですね。

本当に今までありがとうございました。そして、これからもよろしくお願ひいたします。

看護師
西嶋 友美



人たちと、共に食するという `共食` がまた、互いの繋がりをさらに強くしていき、ここから新たな支援の形が生まれていくことを信じています。

さらに、`カフェ` という設定ですのでコーヒーがあります。全自動コーヒーマシンを導入して、夏期はアイスコーヒー、冬期はホットコーヒーを抽出してくれます。飲みたい方はコーヒータケットを購入して頂く予定です。このチケット販売は、成人期の方たちの `カフェ` 部門の仕事 `としたいと考えています。手足を動かしたり、言葉を発することのできない、彼(女)たちの `仕事` をどう見える形にしていくのか、それを模索しています。

さらに、この「たね通信」の編集や写真撮影等に携わってもらったねブレスの働きも考えています。これは、通信だけでなくとまらず、小さなたね発信のブログやSNS(ツイッターやフェイスブックなど)を使って情報を発信していき、その作業の環境を共にできないかと考えています。

ささやかな取り組みですが、重い障がいのある彼(女)たちの、`社会的な役割`と`働き`を見える形にしていくことが、とても大切だと思うのです。



`見えない働き、を`見える働き、として

もちろん、懸命に生きている重い障がいのある人たちは、すでに `生きる` という大きな `働き` しているとも言えますが、しかしそれは、どこか受身と捉えられがちで、一般的に社会の役割として分かりづらいものです。彼(女)たちの存在の意義やその生き方そのものを、医療者や介護者だけの関わりだけで閉じてしまうのでなく、少し広げてみる工夫やきっかけをつくることによつて、くすみがかった原石が輝きたすのではないのでしょうか。

そんな小さなたねの第二章は、レスパイトケアとどまることなく、当事者本人が主体となって生きていく `ステージ` を形づくることを目指していきたいと願っています。安心と安全をベースとしつつも、その一歩先の `冒険` を日常の中に体験できる場所が誰にとっても必要です。小さなたねはこれまでに、多くの方のご支援とご協力を頂きながら取り組んでまいりましたが、今後、これまで以上のご理解とご協力を頂きながら、道なき道を切り拓いて、歩み進んでいきたいと考えております。

あきらめず、彼(女)たちの内に秘めた `力` を信じて、共に生きる豊かさを味わいながら、ゆっくりと進んで行きます。



小さなたね増改築 完成しました!!



早良区梅林に、ちょっとお洒落なスポットが誕生しました!!
毎週水・金曜日は“スープカフェ、(要予約)がオープン。
素材を生かした心温まるスープが堪能できることでしょう。

そして、何といてもこの“場所、が、
重い障がいを持つ彼(女)たちの「青春ステ
ージ」になっていくことを願っています。



新スタッフ紹介

皆さま、こんにちは。7月より入職いたしました、看護師の井上明子と申します。南区弥永という市の境より通勤しています。中学生と小学生の子供3人の母です。

以前、障がい者の方の通所施設や訪問看護ステーション等に勤務していた頃より、小さなたねの情報を耳にする機会が多く、非常に興味深く感じていました。今回こうしてご縁をいただきましたことに心より感謝しつつ、勉強させていただきながら日々励んでおります。

好きな言葉は「Be positive」、好きな花は「カラー」(あの凛とした姿!)、憧れの人は富山型デイサービス「このゆびとーまれ」創始者の看護師・惣万佳世子さんです。愛とユーモアが滲み出ているところが大好きです。今までで一番楽しかった仕事は、ヘルパー時代に経験したガイドヘルプです。

“天然、とのご指摘を度々いただく私ではございますが、ご利用者の皆さまがそれぞれに可能性を広げられ、楽しみや役割など様々な活動に存分に勤しまれ、心に響くような経験や交流を深められますよう、安全をお護りし、全力でお手伝いさせていただきたく所存です。

早く皆さまより安心して頼っていただけるスタッフの一員となれますよう、誠心誠意で努めさせていただきますので、何とぞよろしくお願いいたします。

看護師 井上 明子

